

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会  
衛星・科学業務委員会(第40回)  
議事概要(案)

1 日時

令和6年8月28日(水) 15時半から【Web会議形式】

2 議事

- (1) 衛星・科学業務委員会(第39回)議事概要(案)について
- (2) ITU-R SG7関連会合(2024年3月)の報告書(案)について
- (3) ITU-R SG7関連会合(2024年9月)への日本寄与文書(案)について
- (4) ITU-R SG7関連会合(2024年9月)への外国等寄与文書の審議表(案)について
- (5) ITU-R SG7関連会合(2024年9月)への対処方針(案)について
- (6) その他

3 配付資料

- 資料 衛・科-40-1 衛星・科学業務委員会(第39回)議事概要(案)  
資料 衛・科-40-2 ITU-R SG7関連会合(2024年3月)の報告書(案)  
資料 衛・科-40-3 ITU-R SG7関連会合(2024年9月)への日本寄与文書(案)  
資料 衛・科-40-4 ITU-R SG7関連会合(2024年9月)への外国等寄与文書の審議表(案)  
資料 衛・科-40-5 ITU-R SG7関連会合(2024年4-5月)の対処方針(案)

参考資料1 ITU-R SG7関連会合(2024年9月)の開催案内

参考資料2 衛星・科学業務委員会 構成員名簿

参考資料3 WRC-27議題一覧

※ 下線がある配付資料は不開示情報を含むものがあるため、出席者限りの取扱。

4 出席者(敬称略、順不同)

主 査:加藤 寧

構成員:藍澤 志津、新 博行、伊東 宏之、今村 浩一郎、岡崎 彰浩、神頭 知美、河野 宇博、  
佐藤 祐子、篠原 笑子、外山 美勝、中間 弘、平松 正顕、廣瀬 幸、山條 朋子

関係者:廣谷 奈々美、繁田 勉、市川 麻里、岩名 泰典、横山 隆裕、伊藤 信幸、岩佐 海詩、  
岩間 司、奥住 和義、久保田 文人、黒沢 健人、谷田 尚子、橋本 昌史、福井 裕介、  
福原 好晴、増田 宏一、棟形 丈仁、和田 憲拓

5 議事概要

- (1) 衛星・科学業務委員会(第39回)議事概要(案)について

資料 衛・科-40-1に基づき、衛星・科学業務委員会第39回会合の議事概要(案)の確認を行った。特段の意見はなく、承認された。

## (2) ITU-R SG7関連会合(2024年3月)の報告書(案)について

資料 衛・科-40-2に基づき、ITU-R SG7関連会合(2024年3月)の報告書(案)について、事務局から説明を行った。特段の意見はなく、承認された。

## (3) ITU-R SG7関連会合(2024年9月)への日本寄与文書(案)について

資料 衛・科-40-3に基づき、ITU-R SG7関連会合(2024年9月)への日本寄与文書(案)の検討を行い、以下の議論があった。資料 衛・科 40-3-1及び資料 衛・科 40-3-3については所要の修正を行うことで承認された。これら以外の寄与文書案については、提案のとおりで承認された。

- 資料 衛・科 40-3-1 寄書本文(7B/J-1)

【NTTドコモ 新構成員】 本件で検討している、ITU-R SA.[2 GHz SOS CHAR]の文書の種類は報告または勧告のどちらなのか未定であるが、日本からは前回会合では報告にするという提案をしていたところ、今回の文書は勧告とする提案である。これにあたっては、前置きとして、前回会合の議論を踏まえて再検討した旨等の記載がある方がより丁寧であると感じるが、この記載をしていない理由は何か。また、This PDNR documentという書きぶりは、This documentと書く方がより一般的である。

【東北大学 加藤主査】 文書を前回会合では報告とすべき、今回会合では勧告とすべきと、方針を転換した理由としては、ITUでの慣例に従ったためという理解か。

【宇宙航空研究開発機構 廣谷氏】 報告、勧告の方針転換については、特に大きな理由は無く、WRC-23での議論等を踏まえて再検討したものである。これまでの議論を踏まえ再検討した旨を追記する。また、This PDNR documentという書きぶりについても、This Documentに修正する。

【スカパーJSAT 河野構成員】 他の無線通信業務との共用についてこのようにすべきというような記載があれば、文書の種別として勧告とする理由にはなる。また、ドラフティンググループを立ち上げることを提案しているが、保護対象とするパラメータの抽出等、本質的な内容に関する内容の検討は、ドラフティンググループの所掌範囲外となるので、ドラフティンググループをスモールグループと修正すべき。

【宇宙航空研究開発機構 廣谷氏】 ご指摘の点を反映する。

- 資料 衛・科 40-3-3 寄書本文(7C/J-1)

【NTTドコモ 新構成員】 提案内容として、研究結果の反映方法として、新たなITU-R報告もしくはCPMテキストを作成するという、2つのオプションが示されているが、

WRCの議題であればCPMテキストを作成することは決議で定められているので、まずはITU-R報告を作成し、その内容をCPMテキストへ反映するという流れが良いのではないかと。

【電波産業会 横山氏】 前回のWP7C会合において、ESAから報告文書を作らず直接CPMテキストを作成する形でも良いのではないかとという発言があったため、今回はそれを踏まえて提案したもの。ESAに対しては報告文書の作成は必須ではないというニュアンスが伝わるようにしたつもりだが、ご指摘のとおり通常のITUの流れの話もあるので、これを踏まえ文言を修正する。

【スカパーJSAT 河野構成員】 Attachment全体は周波数ニーズの話をしているのに対し、4.3節では追加分配が保護に有用であるという書きぶりで、ロジックが飛躍していると感じた。もう少し周波数ニーズの話を入れてもいいと感じた。

【電波産業会 横山氏】 周波数ニーズに関する他の報告書の書きぶりも確認したところ、このような書きぶりを行っているものも多数あった。宇宙天気システムで使用する周波数はどの帯域でも良いという訳ではなく、物理現象を正しく観測し、必要な情報を取り出す必要があるため、これを踏まえて記載した。Summaryの部分がCPMテキストに記載されることが想定されるが、他のITU-Rの報告文書の書きぶりを見ると、もっと踏み込んで書いているものもある。

【スカパーJSAT 河野構成員】 承知した。例えば、物理現象の関係で必要な周波数帯域が決まっている旨等、周波数ニーズにからめて記載するのも1案かと考えるが、その点、提案者の判断にお任せする。

【電波産業会 横山氏】 4.1節や4.2節に周波数ニーズの記載があるので、4.3節にはそれらをまとめた形をサマリーとして記載する。

- 資料 衛・科 40-3-4 寄書本文(7C/J-2)

【スカパーJSAT 河野構成員】 今回の提案内容は、いずれも誤記の訂正等、エディトリアルな内容であると見受けられる。ITUの原則として、勧告の改訂は頻繁に行うべきではないという考えがあるが、その点は現地で何か指摘を受ける可能性はないか。また、ITUでは、勧告の改訂とは別に、エディトリアルな訂正という手続きがあるが、そちらの手続きでも良いかと考える。

【宇宙航空研究開発機構 岩名氏】 本勧告は、2023年に改訂されたばかりであり、早急な改訂を提案するものではない。今後、何らかの改訂のついでに本件のエディトリアルな修正も盛り込むということを考えており、それまで議長報告として留保される形を考えていた。

【スカパーJSAT 河野構成員】 その考えであれば、特段問題ないと考える。

#### (4) ITU-R SG7関連会合(2024年9月)への外国等寄与文書の審議表(案)について 資料 衛・科-40-4に基づき、ITU-R SG7関連会合(2024年9月)の外国等寄与

文書の審議表(案)の検討を行い、以下の議論があった。事務局から外国等寄与文書の審議表については、日本代表団を中心にITUへの寄与文書提出締切後更新を行い、別途メール検討をする旨を報告した。

【電波産業会 横山氏】 WP7Bの寄与文書「Report on the activities of the WP 7B Correspondence Group related to WRC-27 AI 1.7」について、我が国の対応としてパラメータの入力を行うとあるが、具体的にはどのようなものなのか。また、衛星としてはJAXAのもの以外にもあると思うが、それらのパラメータを会合の場で示せるようにする準備や予定はあるのか。

【事務局】WRC-27議題1. 7はIMTへの周波数追加であり、4GHz帯、7GHz帯、15GHz帯の追加を検討するものである。このうち7GHz帯では衛星運用のための周波数が多数存在し、日本ではJAXA、大学や企業の小型衛星等で使用されている。現在検討中のリエゾン文書にはこれらのデータが入っていないので、日本から入力する必要があると考える。各種パラメータについて、これから各企業や大学に相談し、収集していく予定。情報収集し、会合へ入力していきたい。

#### (5) ITU-R SG7関連会合(2024年9月)への対処方針(案)について

資料 衛・科-40-5に基づき、ITU-R SG7関連会合(2024年9月)の対処方針(案)の検討を行った。特段の意見はなく、承認された。

#### (6) その他

事務局から、次回委員会の日程の案内と、専門委員に対し、所属の変更等が生じた場合、随時事務局まで連絡するよう報告した。

以上